

# 学舎のともしび守ろう

完成した竹灯籠を  
手にする天草高定  
時制の生徒ら  
|| 天草市



天草市の天草高定時制の生徒たちが、校舎近くの冬の夜を温かな景色にしようと、竹灯籠作りに励んでいる。

天草高定時制 120周年記念

## 生徒ら竹灯籠手作り

同校が120周年を迎えた記念と、定時制の入学者が年々減っていることから、全生徒18人が「学舎の灯をともし続けたい」との思いも込めて作り始めた。

24日夜は教職員も加わり、約20人で作業。慣れない電動ドリルに四苦八苦しながらも、水玉模様など思い思いの形に穴を空けた。

生徒会長で3年の竹本愛理さん(19)は「今年は1年生がいなくて寂しい。竹灯籠も見てもらって、定時制は楽しいということ伝えて、母校を守りたい」と笑顔で作業をしていた。

生徒らは約40本の竹灯籠を制作。29日から12月22日の終業式まで正門につながる「凶南橋」に並べ、夕刻にともす。(酒森希)

## 地震の復興願って 店内に「竹あかり」

福岡・岩田屋三越

岩田屋三越(福岡市)は30日、熊本地震の復興を願う「竹あかり」の演出を、岩田屋本店、福岡三越(ともに福岡市)、岩田屋久留米店(久留米市)の3百貨店で始めた。12月25日まで。

全国の三越伊勢丹グループ28店が、竹あかりの演出を手掛ける「ちかけん」(熊本市)の協力で行うクリスマスプロジェクト。岩田屋三越は独自に「復興への灯り」をサブテーマに設定した。

販売員有志21人が、「ふるさと再生」「未来へのつばさ」などと題したデザインを考案。熊本県産の竹をくりぬいて、竹あかり約70点を制作した。店舗内通路

や入り口に飾られ、やわらかな光を放っている。

プロジェクトリーダーの田中直子さん(48)は「福岡の人が被災地に思いをはせるきっかけになれば」と話している。

(田川里美)



熊本地震の復興を願って竹あかりを制作した岩田屋三越の販売員ら＝福岡市